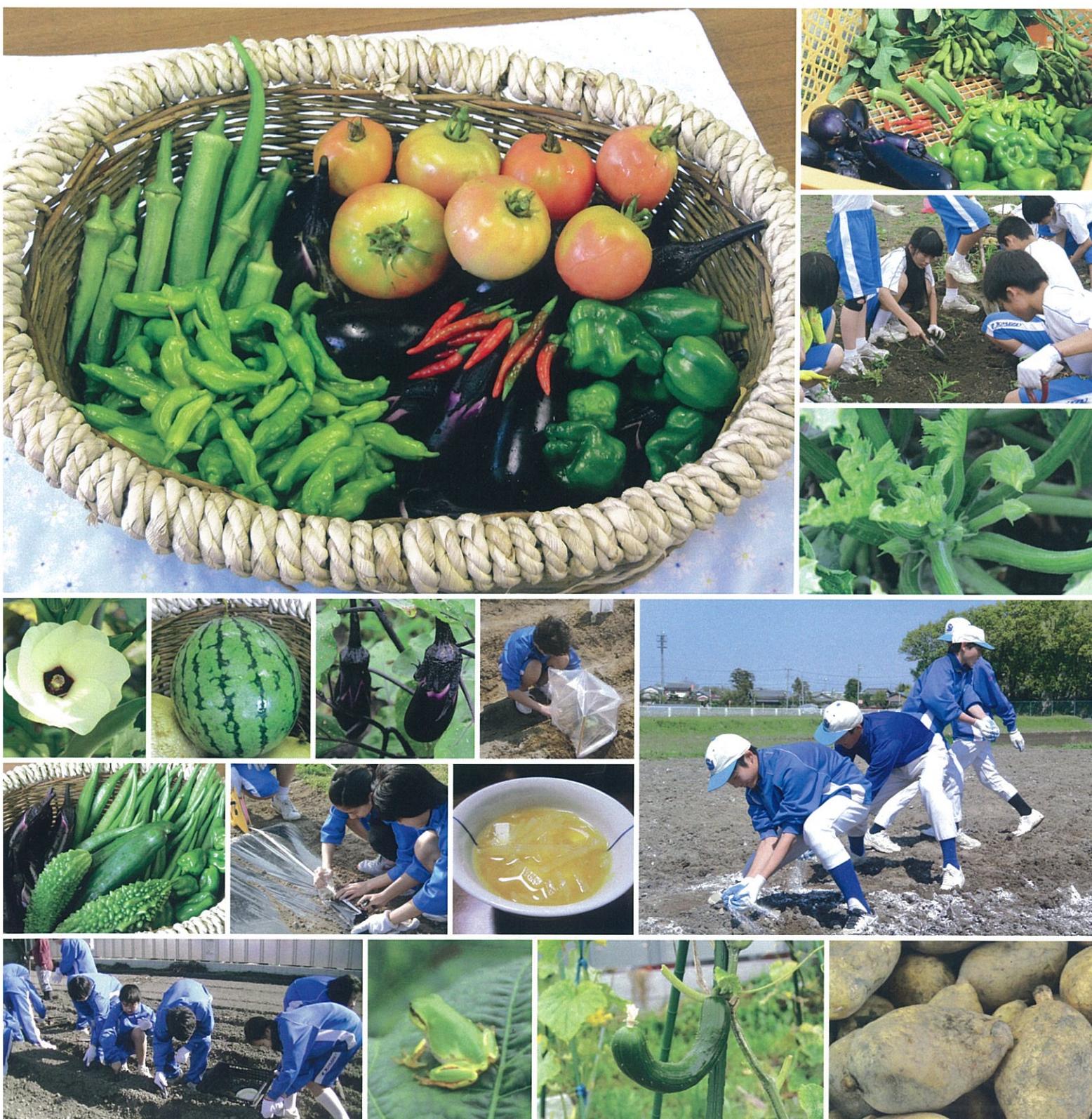


研究主題

地域の環境を生かした学校農園活動の研究

—農園活動を通して「食」と「環境」を考える—

さいたま市立 植水中学校



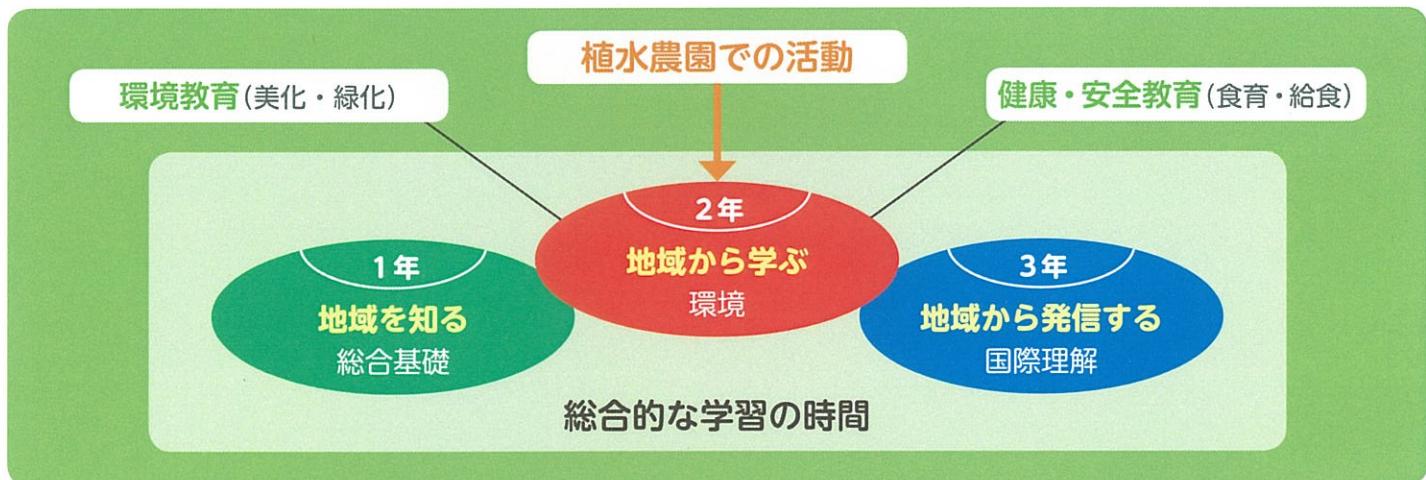
植水農園のはじまり

私たちを取り巻く環境についての考えを深める時、地球規模の課題から身近な生活にかかわるものまで、様々な学習の題材が存在します。幸い、本校は豊かな自然に恵まれ、古くより水田での稲作を中心とする農業が盛んな地域でした。そこで10年ほど前から、学校周辺の休耕地を借り受け、総合的な学習の時間に栽培を行い、農園活動という実践を通して環境を考えさせようという構想が立ち上がりました。これが「植水農園」の始まりです。



農園活動の位置づけ

植水中の農園活動は、第2学年の総合的な学習の時間を中心に「農作物の栽培」という実践的な体験学習から「食」と「環境」について個々に追求・探求する調べ学習を展開しています。



研究の仮説

- 農園活動という体験的な活動を通して自然に親しみ農業の楽しさを知ることができる。
- 自ら育てた作物から、生産者への「感謝の気持ち」や「食」の大切さを学ぶことができる。
- 作物栽培の学習から環境への関心を高め、「環境問題」への意識を高めることができる。

研究の具体的な方策

- 総合的な活動の時間を活用した「農園活動」
- 農園活動を通して地域・農園指導員さんとの関わり
- 学校給食と生徒の活動を連携させた「植水地産地消プロジェクト」
- その後の総合的な学習の発展と教科や特別活動との連携

農園の運用

第1農園

学校正門近く
約320m²

2学年全員で活用している

給食で使用する作物を栽培している
▶ジャガイモ、さつまいも、大根、玉ねぎ

第2農園

学校西側100m
約423m²

2年生の学級、生活班ごとに活用

思い思いの作物を栽培している
▶トマト、スイカ、メロン、ししとう、など

生徒からのオリジナルメニュー

ししとうの素焼き



大根の葉の混ぜご飯



成 果

- 農園活動を通して「農業」や「食」に対する興味関心が高まった。
- 農園活動の中で、生徒たちの多くの感動と笑顔を見ることができた。
- 土壤生物の研究から生き物に対する「生命への尊重」や、自分が収穫した作物から、食べ物への「ありがたさ」や「感謝の心」など情操を育むことが出来た。
- 農園活動の後、総合的な学習の時間でのテーマである「環境」への意識が高まった。

農園運営上の

課 題

- 農園活動は天候に大きく影響されるため、日程が変更することも多く柔軟な対応が必要となった。
- 農園の耕うんや、準備に多くの時間や労力を費やすため、先を見通した綿密な計画が必要である。
- 夏季休業中にも農園の管理や収穫などの作業が必要なため、多くの労力を必要とした。
- 栽培する植物の苗や種の購入、肥料や道具のメンテナンスなど多くの費用がかかり工面に苦労した。



植水中農園と学校給食の取り組み

本校では、学校農園で収穫された野菜を学校給食に活用しています。7月には、じゃがいもを使う献立を、11月、12月には、大根とさつまいもを使う献立を多く取り入れ、収穫された野菜を有効に活用できるような献立作成を心がけています。



【平成25年度 農園野菜使用実績一覧表】

品目	使用月	使用献立	合計使用量
にら	6月・7月	・青菜と豆のスープ ・にらときのこのスープ	2キロ
なす	7月	・ポークカレー	0.5キロ
ゴーヤ	7月	・ゴーヤといもの甘辛和え	3本
じゃがいも	7月	・ポークカレー ・野菜のスープ煮 ・ゴーヤといもの甘辛和え ・じゃがいものそぼろ煮	60キロ
さつまいも	11月	・スイートポテト	19キロ
大根	11月・12月	・きのこ汁 ・葱ぬた ・こんにゃくサラダ ・冬野菜のカレー ・中華サラダ ・のっつい汁	30キロ



6月5日 給食献立から 青菜と豆のスープ

新鮮なにらを加えたスープです。



7月8日 給食献立から ポークカレー

収穫したじゃがいもとなすを使用しました。



11月19日 給食献立から スイートポテト

あんのういもと紅あずまを使用しました。



12月18日 給食献立から のっつい汁

新鮮な大根を使った体が温まる汁ものを作りました。

